

# 研究所だより

編集・発行

千葉県長生地方教育研究所

茂原市東郷2300-1

TEL 0475 (24) 9721・FAX 0475 (23) 4820

H P <http://www.choseikaikan.or.jp/>メール [kenkyujo@beach.ocn.ne.jp](mailto:kenkyujo@beach.ocn.ne.jp)

## GIGAスクール構想の実現に向けた千葉県総合教育センターの取組

千葉県総合教育センター カリキュラム開発部 メディア教育担当  
研究指導主事 茂住卓生

### 1 はじめに

「日本は最下位である。」衝撃的な事実を突きつけられました。皆さんは、この言葉をどのように受け止められたでしょうか。

OECDが行ったPISA2018(高校1年相当学年が対象)のICT活用調査では、

- 日本は学校の授業(国語、数学、理科)におけるデジタル機器の利用時間が短く、OECD加盟国中最下位
- コンピュータを使って宿題をする頻度がOECD加盟国中最下位

という結果が明らかになっています。インターネット上でのチャットやゲームを利用する生徒の割合は、OECD平均よりも約20%多いことから、コンピュータを利用できる環境はあるが、学習には使っていないという生徒が多くいることがわかります。詳しくは、OECDや文部科学省、国立教育政策研究所のWebページをご参照ください。

### 2 長生郡・茂原市小中学校の研究主題等より

さて、令和3年8月20日発行の第157号研究所だよりによると、研究主題や研究仮説等に「ICT」の文字が入っている小学校は25校中7校、「タブレット」は2校、そのうち1校は両方が入っていました。中学校では、12校中1校に両方が入っています。前年度が両方ともに0校だったことから、昨年度整備された1人1台端末の活用に苦慮され、また、何とか進めていきたいとお考えになっている現状が推察されます。

### 3 学習指導要領より

GIGAスクール構想については、前述の第157号で千葉工業大学の須田准教授が言及されていますので、ここでは、学習指導要領から「情報活用能力」について、少し深めておきたいと思えます。

教育の情報化の手引き～追補版～(令和2年6月)にあるように、「情報活用能力」の育成については、臨時教育審議会(昭59.9～62.8)における議論にまで遡ります。昭和の時代にもうすでにその議論がされていたということです。その後、初等中等教育(昭60.9～62.12)、「情報化社会に対応する初等中等教育の在り方に関する調査研究協力者会議」(昭60.1～平2.3)における検討を経て、平成9年に文部省の設置した「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」において、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の3つを初等中等教育段階における情報教育で育む「情報活用能力」の目標としました。その後、平成20・21年告示の学習指導要領において、各教科等の指導の中にコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用する学習活動や、情報活用能力を育成するために充実すべき学習活動が示されました。そして、平成29・30年に告示された学習指導要領では、言語能力、問題発見・解決能力と並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」の一つと位置付けられ、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図り、各学校のカリキュラム・マネジメントの実現を通じて育成することとなりました。特定の限られた校種ではなく、全校種の学習指導要領に「情報活用能力」が学習の基盤であることが明記されたわけです。

考えなければならぬことは、昭和から議論されてはいますが、学校現場において、どれだけ情報活用能力の育成が進んできたかということです。理想的に進んでいたとしたら、OECD加盟国の中で最下位とはならなかったことでしょう。

私自身、学校現場にいた時に、学習指導要領の全面実施へ向けた準備や計画が十分ではなかったという反省がありますが、皆さんの学校の状況はいかがでしょうか。「情報活用能力」は、

「言語能力」や「問題発見・解決能力」とともに学習基盤として、計画的な育成がなされているのでしょうか。

### 4 千葉県総合教育センターの取組

#### (1) 研修

このような背景から、当センターカリキュラム開発部メディア教育担当では、これまでの研修を見直し、令和3年度からの新規事業として、GIGAスクール構想の実現に対応した次の希望研修を、夏季休業期間を中心に行いました。

- ①情報端末とGoogle Workspace(旧称G Suite)活用
- ②iPadとGoogle Workspace(旧称G Suite)活用
- ③PCとMicrosoft365活用
- ④情報モラルと著作権
- ⑤オンライン授業
- ⑥授業動画活用
- ⑦小学校プログラミング

どの研修も大学で専門的に研究をされている教授等の講義があり、最新の専門的な内容を学べる機会となっています。

①～③は、Google社やMicrosoft社の方も講師に招き、1人1台端末やクラウド活用について、Google ClassroomやMicrosoft Teamsの演習を交え、授業で「どのように使えるか」を実践してみる内容でした。④は、情報活用能力に含まれる「情報モラル」について、各受講者の学校の現状を協議したのち、何をどのように育成するかを考え、また、オンライン授業で更に配慮が必要となった著作権について知る機会となりました。⑤は、オンライン授業を実施するために必要なことについて、授業の展開やその準備、オンライン自体の準備等、トライアンドエラーをくり返しながら模擬オンライン授業を実践しました。⑥は、授業動画の活用例を参考にしながら、自身の授業で活用する動画を、動画の内容検討・撮影・編集をしたのち、それを活用した模擬授業を行いました。⑦は、学習指導要領で各教科において実施することとされている小学校プログラミングについて、ICTを活用したプログラミングの演習や授業支援検討、模擬授業を行いました。

長生地区の小中学校の先生方の参加は、受講者148名中延べ10名でした。県下全教職員にこの研修へ参加していただきたいところではありますが、現実的ではありません。参加された10名の先生方に推進役になっていただき、長生地区のICT活用が進むようお願いいたします。

#### (2) 講師派遣

また、教育の情報化に関する内容についてのアドバイスや教職員対象の研究会、講習会の講師を承っています。今年度、すでに長生地区の学校等へ数件お伺いしています。ご担当者の方との打合せだけでなく、事前に参加する皆様アンケートに答えていただく等、参加した先生方にとって有意義なものとなるよう、私達も試行錯誤し、工夫をしながら進めています。ご希望の際は、千葉県総合教育センターのWebページ→学校支援/授業支援→情報・ICT教育→学校支援をご参照いただき、ご連絡をお願いします。

### 5 終わりに

学習指導要領でも言われているように、私達は、予測困難な社会を生き抜くための力を子供たちにつけさせなければいけません。一朝一夕にできることではありませんし、限られた人のみの力によってできることでもありません。私達一人一人のちょっとずつの前進が、積もり積もって大きな前進へとつながると信じています。千葉県総合教育センターとしても皆様を最大限サポートできるよう努めてまいります。お気軽にお問合せください。



# GIGAスクール構想の実現に向けた 東上総の現状と課題及び今後の取組

千葉県教育庁東上総教育事務所夷隅分室  
指導主事 時津 丈二

GIGAスクール構想の実現を目指し、全国で、1人1台端末をはじめとするICT環境の整備が進み、各小中学校では、ICTの積極的な活用が実践されています。

GIGAスクール構想の根幹である「情報活用能力の育成」は、平成初期から学習指導要領でうたわれ始めました。当初の「社会の変化に対する“対応”」という方向性が、現在は「新たな社会(Society5.0)の“作り手”」という、より主体的なものになっています。情報活用能力は、社会の発展に伴い、改訂ごとに重要度が高まり、現学習指導要領では、言語能力及び問題発見・解決能力と並び「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられています。

今回は執筆の機会をいただき、全国及び千葉県の各種調査の結果をもとに、学校訪問や各種研修会において感じたことと合わせて、東上総教育事務所管内（以下管内と表記）の現状と課題及び今後の取組について、述べさせていただきます。

## 1 管内の現状

「端末利活用等の実態調査」（令和3年7月末時点）（速報値）について<令和3年8月31日/千葉県教育委員会>より抜粋

- 端末の整備状況  
整備済み (112校/112校)
  - 端末の利活用開始状況  
全学年で開始 (101校/112校)  
一部の学年で開始 (10校/112校)  
12月までに開始予定 (1校/112校)
  - 非常時の持ち帰り  
準備済み (38校/112校)  
実施するため準備中 (73校/112校)  
実施・準備をしていない (1校/112校)
  - 平時の持ち帰り  
実施している ※ (2校/112校)  
実施するため準備中 (36校/112校)  
実施・準備をしていない (74校/112校)
- ※全児童生徒対象ではなく、登校できない児童生徒を対象としたもの

### 【参考】全国の現状

- 非常時の持ち帰り  
準備済み・準備中の小中学校 (96.2%)
- 平時の持ち帰り  
実施・準備中の小中学校 (76.3%)

GIGAスクール構想の施策の大きな柱である「1人1台端末」は、全小中学校で整備され、ほとんどの小中学校で利活用が開始されています。各教科の授業では、主に調べ学習、ドリル学習、写真や画像の取り込み、仲間との意見・考えを議論して整理する活動に活用されています。

非常時の持ち帰りについては、家庭での通信テストも含め、ほとんどの小中学校での準備を進めています。一

方、平時の持ち帰りについては、実施・準備中の小中学校は、全国の76.3%に対し、管内は33.9%（38校/112校）にとどまっています。

組織的な取組としては、研究テーマにICT関連の内容を掲げている小中学校が22.3%（25校/112校）となっており、各校で計画的に推進されています。また、各校での校内研修、各地区での担当者研修等で教員のICT活用指導力の向上を図るとともに、ICT活用の好事例の情報交換も行っています。現場の先生方は、文部科学省が例示するモデル等を実践し、各学校の状況や児童生徒の実態を踏まえた上で、ICTの効果的な活用を模索しているところです。

## 2 管内の課題及び今後の取組

喫緊の課題は、「学校や教員のスキルの差による活用格差の解消」であると感じます。これは、全国的なアンケート結果にも表れています。方策は、各校において、カリキュラム・マネジメントにより、児童生徒の育成の方向性を踏まえた上で、組織的・意図的にICTの活用場面を設定していくことが不可欠と考えます。授業準備等で過負担にならぬよう、スモールステップで、現行の計画のなかに、ICT活用場面を少しずつ加えていくことからのスタートになると思います。GIGAスクール構想の基本理念である“誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に”学びを保障するため、まずは教員が第一歩を踏み出すことが必要であると感じます。

中・長期的には、家庭での端末活用（持ち帰り）が大きな課題です。持ち帰りについては、破損時の対応、情報モラル、ネット環境の整っていない家庭に対する支援等、クリアすべき点が多くあります。県内でも「全小中学校で平時の持ち帰りを実施している」のは、6自治体にとどまっています。

このような諸課題を解消・克服すべく、千葉県教育委員会では、11月からGIGAスクールサポーター配置事業を実施しています。GIGAスクールサポーター、各教育事務所の指導主事、各市町村教育委員会の担当者が連携し、小中学校のICT化の細かい実態把握を行い、改善に向けての助言・支援をしていきます。

学校現場では、多くの課題を抱える中ですが、新しい社会の作り手の育成のために、一歩を踏み出していきましょう。

### 【参考資料】

- 教育の情報化に関する手引き（追補版）<令和2年6月/文部科学省>
- 「端末利活用等の実態調査」（令和3年7月末時点）（速報値）について<令和3年8月31日/千葉県教育委員会>
- GIGAスクール構想に関する教育関係者のアンケート結果及び今後の方向性について<令和3年9月3日/デジタル庁・総務省・文部科学省・経済産業省>
- 令和3年9月時点の1人1台端末活用状況調査結果の周知について<令和3年10月15日/千葉県教育委員会>



# GIGAスクール構想始動から半年、 創造性を育む教育の実現に向けて

柏市立手賀東小学校 校長 佐和 伸明

## 1 はじめに

2019年12月19日、「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～」というタイトルで文部科学大臣メッセージが出された。そして、2021年度より本格的に1人1台端末環境下での新しい学びがスタートし、約半年が経つ。

地域や学校による温度差はあるものの、子供が必要に応じてネット検索したり、デジタル教科書やAIドリル等を利用したりする姿が日常化し、公正に「個別最適化された教育」をめざすための1人1台端末活用のイメージは、だいぶ共有されてきたように思う。しかし、もう一つのねらいである、「創造性を育む教育」については、まだあまり進んでいないように感じている。



## 2 教師の授業デザイン力

創造性を育む教育が進んでいない理由の一つは、「1人1台端末で、創造的な学びをどのようにデザインしていったら良いかわからない」という教師が多いことではないだろうか。そこで、本校では、創造性を育む学びの実現に向けた単元開発に取りくむことにした。全学年で実践を始めているが、ここでは、2つの学年について紹介したい。

まず、5年生は、外国語の授業で、外国人や他校の友達をオンラインでつなぐ協働学習を行った。外国人(ALT)と英語で話す機会を増やしたいと考え、子供たちを3人ずつのグループに分け、オンラインで交流を続けた。さらに、市内の学校と、「サプライズでTシャツをプレゼントする」という共通のゴールを設定し、ALTから収集した情報をもとに、Tシャツのデザインについての話し合いをオンラインで行った。お絵描きアプリで作成したデザインを、ネット印刷業者に発注し、完成したTシャツをALTの自宅に郵送した。オンラインの途中でTシャツの包みを開けてもらい、大きなジェスチャーで喜んでくれたALTの姿を見て、子供たちの達成感や満足感も高まった。



2年生は、生活科でザリガニ釣りを行い、「どんなエサで釣れるか」について検証する実践を行った。「イカで釣れるなら白い消しゴムで釣れるのでは?」「おいに寄って来るならニンニクでも釣れるのでは?」「カラフルなピーマンは見つけやすいのでは?」など、子供たちの予想は、教師の想定を超えるものであった。各自の予想について、1人1台端末で実験の様子を動画で撮影し、編集した作品を発表した。ちなみに、上記の予想例

については、全てザリガニを釣ることができた。しかし、釣れるものと、釣れないものの理由がはっきりわからないので、動画をYouTubeで公開し、一般人から意見をもらいながら研究を継続している。



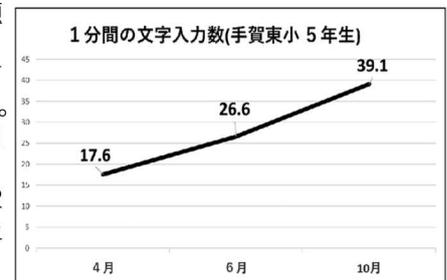
これらの事例のように、創造性を育むことをねらいとし、解のない課題を設定し、対話的な学びを通して最適解を見つけていくといった学習は、1人1台端末によって実現しやすくなった。今後は、このような創造力を育む学びの実践事例を、多くの教職員と共有していくことが必要だと考えている。

## 3 子供の端末活用スキル

創造的な学びを実現する上で、もう一つの課題は「子供たちのタイピング力」である。それぞれの意見を同時に書き込んだり、コメントを打って話し合ったりする活動をする上で、学習の支障になるのは文字入力の手速である。

2015年に文科省が子供たちのタイピング力を測る調査を行った結果、小学生の1分間あたり入力数は平均5.9文字であった。10秒に1文字程度しか入力できなかったことになり、これでは、端末を使い自分の考えを表現したり、意見を交換したりすることはできそうにない。

本校でも2021年4月に同様の調査を実施してみたところ、5年生の平均が17.7文字であった。3年前から1人1台の端末を利用しているため、国の調査より3倍くらい良い結果であったが、一方で個人差がたいへん大きいことが分かった。そこで、全校体制でタイピング力の向上を図ることとした。朝学習の時間や授業でのちょっとした時間をタイピング練習に充てた。また、アプリによるタイピング練習を宿題にしたり、夏季休業中は日記を書くことを課題に出したりと、家庭学習としても取り組ませた。その結果、6月は26.6文字、10月には39.2文字にまで向上した。



## 4 おわりに

子供たちが学校や家庭で端末を利用する姿が当たり前になったことは、2021年度前半の大きな変化であり、GIGAスクール構想の成果である。今後は、どのような力をつけるために端末を利用しているのかといった、目的や内容がますます問われてくるだろう。

本校では、引き続き、創造性を育む学びの実現に向けて、教師の授業デザイン力を高める研修と、子供たちの活用スキルを向上させる取り組みを進めていきたい。



# 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業改善

～見方・考え方を働かせた「茂西スタイル」の実践～

## 茂原市立西小学校

### 1 はじめに

本校は、令和元・2年度茂原市教育委員会の指定を受け、「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業改善を研究主題とし、国語科・算数科を中心に研究を行ってきた。今年度も継続して研究を進めている。

主体的に探究する児童の育成を目指し、学習指導の在り方を「見出す→自分で取り組む→広げ深める→まとめあげる」の4つの学習過程を「茂西スタイル」として位置づけた実践を行っている。

### 2 研究目標

主体的に探究する児童を育てるために、「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業改善の在り方を追究する。

### 3 研究仮説

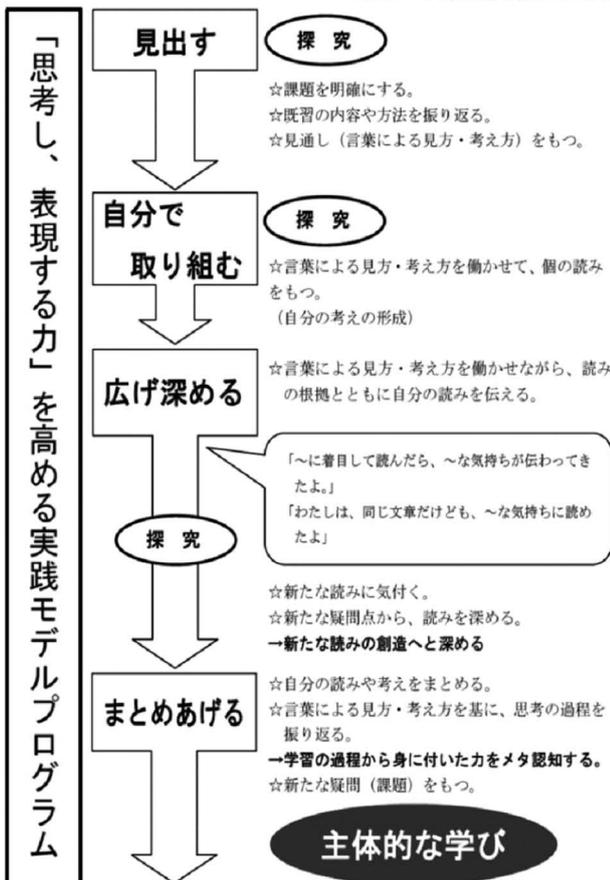
「見方・考え方」を働かせた授業展開を実践すれば、主体的に学びを探究し、思考し表現する力を高めることができるであろう。

### 4 研究実践

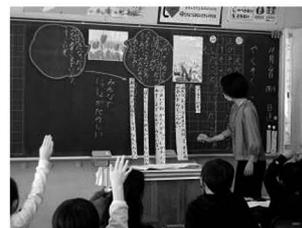
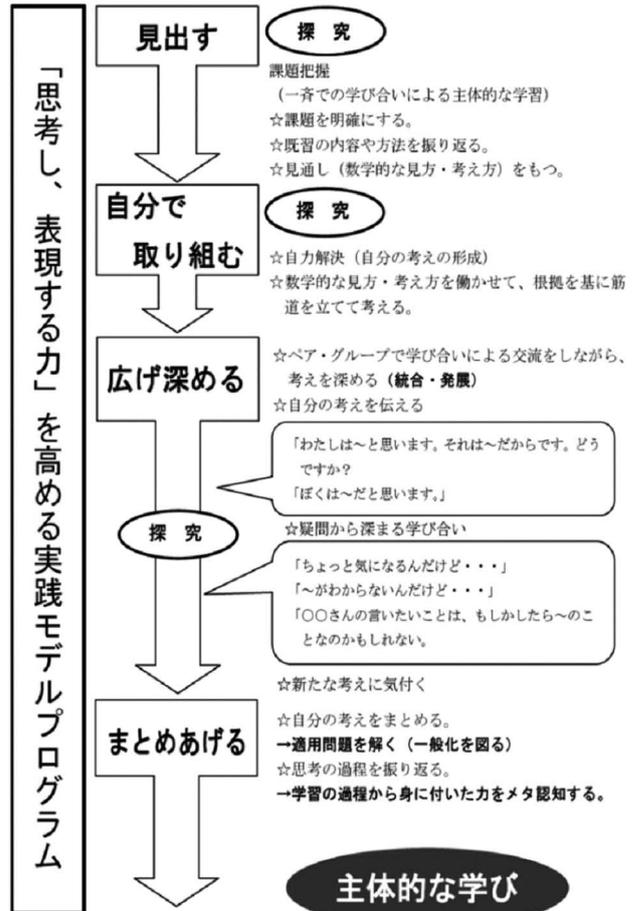
#### (1) 茂西スタイル

#### ～ 国語科「読むこと」の授業プログラム ～

単元のゴールを設定し、学習計画を立てる。



#### ～ 算数科の授業プログラム ～

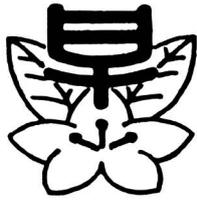


### 4 おわりに

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業改善に取り組んできた。国語科では、物語や説明文などの「読みの視点」を明確にすること、算数科では、既習内容をまとめた「学びにツナグ」を活用したことにより、毎時間の「見方・考え方」を意識できるようになった。

このように、「見方・考え方」を働かせた授業展開を実践することにより、自ら課題をもち、主体的に学びを探究し、自分の考えを根拠をもって表現する力の向上につながったと考えられる。

（文責 御園生 恵子）



## 主体的な判断力を養う道徳科を目指して

～他者との対話を通して～

### 茂原市立早野中学校

#### 1 主題設定の理由

##### (1) 道徳教育の今日的な課題から

新中学校学習指導要領解説には、道徳科における問題解決的な学習とは「生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し、実行し、よりよく生きていくための資質能力を養う学習」と定義づけている。

本校では、生徒が意欲的に授業に取り組むだけでなく、各教科、総合的な学習の時間、特別活動及び行事においても相互の意見交換を通して多様な考え方のあることに気づかせたい。そして、よりよく生きるための道徳的価値を見つめ、どう生きていくかを考え、主体的に判断する力を養うには、他者との対話を通して、豊かな人間関係を構築する必要があると考え本主題を設定した。

##### (2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は「豊かな心とたくましい体力・行動力をもって、新しい時代を切り拓いてゆく創造力豊かな生徒の育成」である。

本校では「主体的に学習に取り組む、豊かな表現力を育成する」を各教科共通のテーマとしてきた。この研究から、各教科の学習の中で、生徒が主体的に個性の伸長を図ろうとする意欲が感じられるようになってきた。

本校がこれまでに追求してきた授業改善のテーマに結びつけ、「主体的な判断力を養う道徳科」はどうあるべきかを明らかにしたいと考えた。

道徳科の授業の楽しさに気づかせるためには、生徒が他者との対話を通して、主体的に判断していく授業づくりが大切であると考え、本主題を設定した。

##### (3) 生徒の実態から

本校には、明るく素直な性格で、仲間を温かく応援できる思いやりの心を持っている生徒が多い。一方で、自分の気持ちや意見を他者に伝えられる表現力においては苦手意識を持つ生徒も見られる。また、基本的な生活習慣や公德心、規範意識の成長を必要とする生徒も一部で見られる。そして、主体的に個性の伸長を図ろうとする意欲については、多くの生徒に芽生えつつあるものの、より一層の向上を目指し、学校全体で取り組む必要がある。このような実態を踏まえ、主体的に判断する力を身につけた生徒が育成できるような授業の改善を図りたい。

#### 2 研究の目標

「主体的な判断力を養う道徳科」の授業の在り方を明らかにするため、「教材活用方法」「話し合わせ方」「終末の持ち方」を視点に授業実践を進める。

#### 3 研究の仮説

(1) 導入・展開時に効果的な教材の活用をすることで、生徒が興味・関心を持ち、自ら学びたいという課題意識や課題追究への意欲を高めることができるであろう。

(2) ねらいに迫る適切な発問を工夫することで、生徒が道徳的価値について多面的・多角的に考えること

ができ、議論が深まるであろう。

(3) 道徳科ノートを工夫し、積み重ねることで生徒のよい点や進歩の状況を把握でき、学習の成果が評価につながるであろう。

#### 4 研究の方法・内容

##### (1) 主題に向けた研究

- ① 主体的な判断力を養うための導入・展開時での効果的な教材活動の在り方
- ② 道徳的価値を深めさせる議論の在り方
- ③ 主体的に道徳性を高めようとする意識につながる終末の在り方

##### (2) 全教育活動における道徳教育に関する研究

- ① 学年道徳の実践
- ② 道徳コーナーの実践

##### (3) 授業力向上に向けた研究

- ① 道徳科授業の実践と検証
- ② 道徳通信の発行

#### 5 研究の実践

##### (1) 生徒の実態把握

HUMANⅡの実施

生徒の実態把握と研究の方向性を見るための一助としてHUMANⅢを実施した。

##### (2) 道徳指導案検討会

要請訪問で道徳科の授業を展開するにあたり、全体で指導案検討会をもち、授業の流れや発問、振り返りの方法などを中心に指導案づくりを進めた。特に授業の軸となる発問は、生徒の反応を予想し考案した。

##### (3) 授業の相互参観と他校への授業参観

学年内で道徳科の相互授業参観を行い、同じ資料を扱う際の効果的な導入や発問などについて参考にすることができた。

##### (4) 校内授業研究会

- 講師による理論研究会『道徳指導の在り方』
- 要請訪問『道徳科授業研究』・『道徳指導の在り方②』
- 講師による研究会『道徳指導の在り方③』

##### (5) 評価の準備・道徳科ノートの積み重ね

道徳科ノートの全学年統一を図ることで、学年ごとに評価に差がでないようにした。また、保護者への通信欄を設けることで、生徒の様子を伝えることができるようにした。

#### 6 成果と課題

##### (1) 成果

他者との対話を通じた授業を繰り返す中で、本音が出せる学級の雰囲気がつくられるようになり、生徒や教師が楽しみながら議論につなげることができた。

##### (2) 課題

今後も生徒の実態を把握し、生徒の気持ちに寄り添い、道徳の授業の充実を目指したい。

(文責 齋藤 知一)

# 令和2年度千葉県長期研修生 情報公開

長期研修で作成した教材や資料を紹介します。詳しい情報や貸し出しのお問い合わせは各執筆まで。



## 心臓モデル教材の紹介・貸し出し案内 茂原市立本納中学校 教諭 齋藤 亮平

### 1 二心房二心室血液循環型モデルの活用

心臓のポンプとしての働きと血液の循環経路の理解を手助けする教材として、二心房二心室血液循環型モデルを開発した。このモデルでは、ピペットのシリコン球を心臓の心房や心室に見立て、心臓のポンプとしての働きと血液の循環を再現した。授業では、生徒にシリコン球を実際に押しながらポンプとしての働きを実感させ、弁の働きで血流の方向が一定になっていることなどを見出させるといった学習に活用ができる。



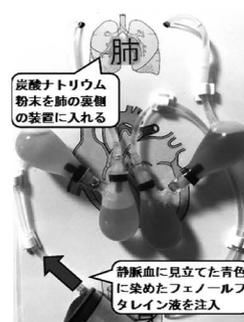
### 2 二心房二心室ガス交換観察モデルの活用

二心房二心室血液循環型モデルの派生型として、血液に見立てた試薬の色の変化を通して肺におけるガス交換と動脈血、静脈血の関係性を観察できるモデルを開発した。肺のアダプターに炭酸ナトリウム粉末を入れ、大静脈から青色に染色したフェノールフタレイン液を注入す

ることで、肺でのガス交換の様子を色の変化を通して調べることができる。授業では、血液の色の変化の理由を血中の酸素と二酸化炭素のガス交換が肺で行われていることと関連させて思考させることなどへの活用ができる。

### 3 二心房一心室血液循環型モデルの活用

二心房二心室はガス交換の過程で動脈血と静脈血が混ざらずに血液循環できる。これを実感させるために、二心房一心室である両生類の心臓を再現した、二心房一心室血液循環型モデルを開発した。授業ではモデルの操作を通して、血液循環させると動脈血と静脈血が心室内で混ざってしまい、血液の循環効率が悪くなることを見出させるなどの活用が考えられる。



## 小学校外国語活動 授業で使用できる参考絵本 茂原市立東郷小学校 教諭 矢代 朋美

### 1 絵本の活用の有用性

絵本は絵やストーリーから今までの知識や経験を思い浮かべやすく、意味や内容理解に結びつきやすい作品が多くある。絵本を読み聞かせることで、絵と文字の視覚的な情報と音声による聴覚情報とを一度に与えることが可能となり、多くの理解可能なインプットと良質なまとまりのある英語を児童に与えることができる。ここでは、中学年の児童でも理解しやすいよう、指導する単元の題材や言語材料との共通点があるもので、絵からもストーリーが掴める簡潔な内容の絵本を言語内容ごとに分類して紹介していく。

### 2 参考絵本

言語内容	題名	作者
あいさつ	GOOD NIGHT MOON	Margret Wise Brown
	Wike up, Hippo!	Eriko Kishida
	Excuse Me!	Karen Katz

言語内容	題名	作者
色	ELMER	David McKee
	Little blue and little yellow	Leo Lionni
	Planting a Rainbow	Lois Ehler
数	TEN RED APPLES	Pat Hutchins
	CIRCUS	Lois Ehler
形	COLOR ZOO	Lois Ehler
	SO MANY CIRCLES, SO MANY SQUARES	Tana Hoban
季節	Pie in the Sky	Lois Ehler
	THE HAPPY DAY	Ruth Krauss
果物	Handa's Surprise	Eileen Browne
	Strawberries are red	Petr Horacek
時局	Good Evening, Dear Moon	Akiko Hayashi
	The Grouch Ladybug	Eric Carle
曜日	Today Is Monday	Eric Carle
	THIS IS NOT MY HAT	Jon Klassen
洋服	How do I put it on?	Shigeo Watanabe

# 令和3年度千葉県長期研修生の活動



〈国語科〉  
茂原市立豊田小学校  
教諭 渡邊 紘志

## 深い学びを実現する国語科学習の在り方 ～自らの考えを形成し、表現する 賢治記念館づくりを通して～

深い学びを実現するためには、学習指導要領に位置付けられた「考えの形成」に視点をあて、子ども一人一人が、自分の考えを形成する学習過程を見直す必要を感じた。それは、学級全員が共通の読みの視点を持ち、同じ言語活動を一齐に行う学習過程では、個に応じた考えの形成を促すことが難しいと感じたからである。そこで、自分の読みを様々な方法で、総合的に表現する「記念館活動」を取り入れた学習が有効ではないかと考え、個別最適な学びが保証され、自らの考えを多様な視点から形成することに重点をおいた単元づくりを行った。

【単元の流れ】※第3次途中まで実践済み

### 第1次 記念館について知り、単元の見直しをもつ

子どもたちと、記念館の役割、そして展示物とはどのようなものかを記念館のHPやパンフレットをもとに考えた。偉人に対する尊敬と愛情が形になっていること、展示物には学芸員の分析や思いが込められていることに気付かせることができた。

### 第2次 自分に適した言語活動で展示物づくり

やまなしを取り上げた教師見本の分析を行った。その後、4つの展示物の中から、自分に適した読みの視点で表現された展示物を選び、作成した。(4つの言語活動)

- ① 仮想対談
- ② アンソロジー
- ③ 登場人物リサーチ
- ④ 名文リサーチ

展示物に表現するために、再読し、問いを立てながら、自らの考えを形成して表現させることができた。

### 第3次 自分にとっての賢治作品の楽しみ方

ゲストティーチャー(岩手大学望月先生)から「賢治作品の楽しみ方」をテーマにお話をいただいた。宮沢賢治の生き方と作品との関連を具体的な資料から考えることができた。今後、このお話をきっかけに、

そこの月明かりの水は

やまなしのいいにおいていっばいでした

やまなしより

この賢治作品の楽しみ方

この賢治作品の楽しみ方

自分の賢治作品の楽しみ方とは、どのような視点から読むことかをまとめ、岩手県花巻市の小学校とのzoom交流につなげていく予定である。

### 第4次 記念館の運営と振り返り

第2次、第3次で表現された展示物を児童がレイアウト等を考え展示、解説する場を設けていく。

今後は、この単元を通して子どもたちの考えがどのように形成され、変容していったのかを録画データや事後調査等を行い分析していきたい。



〈体育科〉  
茂原市立五郷小学校  
教諭 佐藤 章雄

## 技能向上につながる対話型学習の在り方 ～子どもとつくるコミュニケーションデザイン マップの活用を通して～

第5学年「短距離走・リレー」の学習において、児童とともに対話学習の「話す」「聴く」の内容について評価指針を作成し、それを活用し、対話型学習のスキルを身に付けさせる学習指導を行った。これまで見えにくかった評価を「見える化」したことで、児童はより良い対話の具体的な姿をイメージできるようになり、対話型学習のスキルが身に付いたのか、技能向上に有効であったのかを、検証授業を行って明らかにする。

### 1 児童と評価のものさしを共有する 作成段階

「どんな姿を目指すのか」「どんなことができるようになるのか」を児童と一緒に話し合いながら作成したことで、学びの目標を教師と児童が共有できた。また、評価のものさしが統一され、次の目標を達成するためには何が足りないのか、どうすればよいのかが視覚的にはっきりと分かるようになった。

評価	C もう少し	B できた	A よくできた
伝え方	自分や友達の問題がわからない、伝えることができない。	オノマトペを使って自分や友達の問題や解決方法を伝えることができた。	評価ポイントを使って自分や友達に具体的な課題や解決方法を提案したり、親類のあるアドバイスをしたりすることができた。
聴き方	友達のアドバイスがなかったり、反応したりすることができない。	友達のアドバイスに対して、反応することができた。	友達のアドバイスに対して、反応したり、確認したりすることができた。

### 2 相互評価で対話型学習のスキルが向上 活用段階

毎時間の授業の終末に、同じグループ内の友達同士で相互評価を行う時間を設けた。お互いを評価する活動を通して、自分と友達の対話を比較したり、自分の発言が友達の技能向上につながっているのかを確認したりする機会となった。

対話の振り返りしましょう。一人一人を評価しよう。

聴き方	3 A	2 B	1 C
伝え方	3 A	2 B	1 C

評価した理由

	C 1	B 2	A 3
課題がわからない、伝えられない。	オノマトペを使う、自分や友達の問題や解決方法を伝える	評価ポイントを使う・具体的な解決方法	親類のあるアドバイス

伝え方

### 3 よりよい対話の姿を考案 修正段階

単元中盤に、各評価項目が今の自分たちの対話を評価するのに適しているのかを再度確認し、必要があれば修正したり、技能向上につながる対話の評価を追加したりする活動を取り入れた。より良い対話の姿をクラス全体で考え、共有する活動を設定したことで、コミュニケーションデザインマップが改善され、一人一人の対話力やリレー技能の向上につながったのではないかと考える。

### 今後の方向性

現在、検証授業において実施した、質問紙調査や学習カードの記録データ、ICレコーダーの児童の発言、ビデオ撮影による技能の変容を集計し、分析を行っているが、児童による対話の相互評価と技能向上には相関関係が見られた。今後、チーム内での児童のやり取りを分かりやすく図式化し、対話の深まりを分析していきたい。

### 令和3年度千葉県長期研修生の活動



〈小学校外国語科〉  
茂原市立東郷小学校  
教諭 大多和 絵美

自分で考え、伝え合う、英語によるコミュニケーション能力を育成する指導法の在り方～Small Talkにおける既習表現の活用を通して～

#### 研究主題について

小学校学習指導要領や千葉県外国語教育推進計画において、英語でコミュニケーションを行う場面や状況に応じて、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる力の育成を目指すとされている。それを受け、既習表現を活用し、話す内容や使用する表現を自分で考え、伝え合うことができるコミュニケーション能力の育成を目指し、本主題を設定した。

#### 研究目標

話すこと〔やり取り〕の活動において、場面や状況に応じて「自分で考え、伝え合う」力を育成するためのSmall Talkの指導実践を通して、その指導効果を検証する。

#### 授業の概要（第6学年）

##### （1）Small Talkの活用

Small Talkとは、現行の学習指導要領より高学年教材で設定されている活動である。その主な目的は、①既習表現の定着を図ること、②対話の続け方を指導すること、の2点である。

授業のはじめと終わりにSmall Talkを行った。授業のはじめのSmall Talkでは、既習表現を活用できるような場面や話題設定を行い、授業の終わりに行うSmall Talkでは、本時の学習内容に関するやり取りを行った。本単元で扱う話題や、言語材料も取り入れることで、既習表現のみならず、新出表現の定着も図ることができた。また、対話を続けるための基本的な表現を段階的に指導することで、相手との会話を続けることができるようになった。

##### （2）やり取りを行う場面の意図的な設定

児童が英語でやり取りを行う場面を意図的に多く取り入れるようにした。ペアワーク（隣の人、前後の人）、列ごと、グループごとなど、場面に応じて様々な形態を用い、児童が実際のやり取り活動において言語材料を使用できる場面を多く設定した。児童は、実際のやり取りを通して、話す内容や使用する表現を自分で考えて伝え合うことができた。

##### （3）振り返り場面におけるICT機器の活用

2時間に1回程度、終わりのSmall Talkの様子をペアでタブレットに録画し合った。児童は、自分のやり取りを客観的に振り返ることができ、場面や状況に応じて使ってみたい表現などを確認し、それをもとに次のめあてを確認することができた。また、今までの自分の会話の様子を見比べることで、自分のやり取りの変容や成長を実感することができた。教師は、普段の活動の中では見取ることが難しいやり取りの様子を確認し、評価に活用することができた。

#### 研究の結果と考察

今後、授業で行ったSmall Talkにおける児童のやり取りの変容や、事前、事後テストにおける知識や技能の定着状況について分析、考察していく。

### 教育功労表彰

本年度の教育功労等の表彰において、次の先生や団体が、日頃の教育活動のご功績を認められ表彰されました。心よりお祝い申し上げます。なお、掲載順につきましては、表彰の名簿順とさせていただきます。

（敬称略）

#### ○秋の叙勲

瑞 宝 双 光 章 宮 崎 徹

#### ○千葉県教育功労者表彰

##### 〈教育行政の部〉

茂原市教育委員会 元委員 齋藤 晟

##### 〈学校教育の部 個人の部〉

茂原市立萩原小学校 校長 村澤 昭憲  
茂原市立本納小学校 校長 増田 光広

##### 〈学校教育の部 団体の部〉

一宮町立一宮小学校

#### ○茂原市教育功労者表彰

茂原市立豊田小学校 校長 青木 聡  
茂原市立西小学校 校長 松村 暁雄  
茂原市立萩原小学校 校長 村澤 昭憲  
茂原市立中の島小学校 校長 阿部倉光宏  
茂原市立本納小学校 校長 増田 光広  
茂原市立二宮小学校 校長 佐藤 功  
茂原市立豊岡小学校 教頭 伊東 和彦  
茂原市立東郷小学校 教諭 長島 玲子  
茂原市立五郷小学校 教諭 佐藤登志子  
茂原市立萩原小学校 教諭 渡邊喜久子  
茂原市立東部小学校 教諭 西谷 善美  
茂原市立東中学校 養護教諭 土橋 やす子  
茂原市立富士見中学校 事務長 時田 よし子  
茂原市立富士見中学校 教諭 村澤 泰子  
茂原市社会教育委員 内富 康二